



昭和 100 年



今年 2025 年は昭和の初めから数えて 100 年目にあたります。

1926 年 12 月 25 日、昭和天皇の即位により始まり、1989 年 1 月 7 日の崩御により終わりました。昭和元年から昭和 64 年まで続いた日本の年号で最も長い時代となっています。偶然にも最初の 1926 年と最後の 1989 年は 7 日間ずつです。

昭和レトロとして昭和時代のデザインやレコードなどの文化が再注目を集める昨今、第二次世界大戦・高度経済成長期・そしてバブル経済など、激動の 62 年と 2 週間から平成さらに令和へと続いたこの 100 年間を歴史・文化などから振り返ります。



昭和の由来



昭和は中国古典の「書経」より「百姓昭明、協和萬邦」に由来し「国民の平和と世界各国の共存繁栄を願う」という意味が込められています。

ちなみに江戸時代、今年の大河ドラマの主人公、蔦谷重三郎（1750 年～1797 年）が生きた時代の『明和』（1764 年～1772 年）の由来も同じ出典です。



『ロングセラー商品のパッケージデザイン』

新星出版社編集部／編

新星出版社 2010 674.3



子どもの頃から身近にあったあの商品のデザインの変遷が一目でわかる一冊。懐かしいデザインに思わず声が出てしまいます。デザインと時代背景にも言及しており商業デザインに興味のある方も必見です。

『普天を我が手に 第一部』

奥田英朗／著

講談社 2025 F



奥田英朗が昭和 100 年に放つ、壮大な昭和史サーガ三部作。7 日間の昭和元年に生まれた 4 人の主人公がそれぞれの世界で昭和を生きぬきます。第一部は親世代の視点で太平洋戦争までの物語が描かれます。

『スターハウス 戦後昭和の団地遺産』

海老澤模奈人／編著

鹿島出版会 2023 518.83

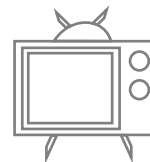


戦後、昭和の時代に建てられていた団地をスターハウス（星型住宅）といいます。老朽化などにより、急激に数を減らしているスターハウスの記録や現在について知ることができます。昭和の建築好きは必読の一冊です。

『あのころ、うちのテレビは白黒だった』

平野恵理子／著 海竜社 2020 382.1

昭和の時代の暮らしといえば白黒テレビなど、アナログなものをイメージしがちです。パソコンやスマートフォンなど、現在便利に使っているものの大半がなかった時代、使っていた道具や生活の知恵は今と大違い。昭和の暮らしを懐かしみながら、新たな学びを得ることができます。



『東京會館とわたし 上』

辻村深月／著 毎日新聞出版 2016 F



芥川賞や直木賞の選考会場として知られる東京會館。そんな建物を中心に、上巻では大正から昭和にかけての物語が収録されています。訪れる人だけでなく従業員にもスポットを当てた本作。人の数だけ物語がある、と感ぜさせてくれます。

『宿帳が語る昭和 100 年』

山崎まゆみ／著 潮出版社 2024 281.04

温泉宿の主人・女将たちをインタビューしたエピソード集です。昭和に活躍した西城秀樹、志村けん、高倉健、松田優作、ジョン・レノン夫妻など、有名人のリラックスした姿が目につかぶ話。心がほっこりするような出来事などが収録されている本です。また、柔らかく優しい似顔絵の表紙にも引かれます。



『味』 秋山徳蔵／著

中央公論新社 2015 B596.04



昭和天皇の日常の食事と宮中餐宴料理の料理番を半世紀務めた、初代主厨長秋山徳蔵さんの手記です。戦後食糧難の宮中での模様など、一般にはうかがい知れない話ばかりです。巻末の「完全な食卓作法」も興味深いです。

『昭和少年 SF 大図鑑』 堀江あき子／編

河出書房新社 2019 504



昭和 20～40 年代の子どもむけ雑誌のイラストをまとめた、団塊世代には懐かしい未来予想図の本です。

空飛ぶ車、ロボットなど当時の子どもたちに科学の進歩を夢いっぱい伝えていきます。未来への期待が感じられる大図鑑です。